

今週の
みことば

「すべてのことが神から発し」

(箴言 3 章 1 3 節～2 0 節)

「知恵は真珠よりも尊く、あなたの望むどんなものも、これとは比べられない。その右の手には長寿があり、その左の手には富と誉れがある。」(15, 16)

(ローマ人への手紙 1 1 章 3 3 節～3 6 節)

「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。」(11:33)

今日のメッセージ要旨

◎私たちは聖書を通して最も大切なことが何であるかを知り、悟ることが出来るとするならば、なんと幸いなことでしょうか。

◎箴言 3 章の主題は「知恵の結果」で、①知恵への信頼、②知恵を得るものの幸福、③知恵を得るものに対する主の守り、④知恵ある者と隣人、に分けられます。「知恵」は一般的には、人間の経験によって得られる知的能力や技術或いは技能を意味しますが、箴言では宗教的、倫理的意味において賢く行動するための霊的理解あるいは洞察力を意味しているのです。

「主を恐れることは知識の初めである」(1:7)。主を恐れるとは、神様を敬い、神様の意思に服従することです(伝道12:13)。神様の真理を正しく理解する知識は、神様を恐れることから出発するのです。旧約時代には、長寿や、富や、誉れが神様の祝福と考えられていました。しかし、新約時代では霊的祝福が強調されるようになったのです。物質的祝福は一時的であり、霊的祝福は永遠だからです。知恵はいかなる物質的富よりも価値において勝っていることを述べているのです。

主に委ねる。即ち、分からないことや今決められないことを心配し、悩むのを止め、主の導きに信頼して、今できることを精一杯行うことです(詩篇131篇)。これは違うと思ったら、改めるゆとりを持ち、修正する柔らかい心でいる。それが箴言で言う知恵であり、元気に生きる秘訣ではないでしょうか。

◎ローマ人への手紙 9 章 1 節～11章36節は「神の選び」について記されており、以下に分解されます。①9:1～29節、イスラエルの選び、a, パウロの悲しみ9:1-5, b, 神の主権による選び9:6-29、②9:30～10:21節、イスラエルの不信仰による拒絶、a, 行いによる義か、信仰による義か9:30-10:13、b, 神による救いの呼びかけ10:14-21、③11:1～36節、イスラエルの救い、a, 恵みによる残りの民11:1-10、b, イスラエルの救いの希望11:11-32、c、選びの計画に対する賛美11:33-36、です。

同胞の救いを熱く祈るパウロに、神さまはご自身の計画を明らかにされたのです。いま異邦人が次々にキリストを信じて救われているのは、イスラエルの妬みの心を起こさせ、彼らもキリストを求めるようになるためであり(11-15)、やがて「イスラエルはみな救われる」(26)のです。だからキリストを信じた異邦人は高ぶってイスラエルを見下してはならないとパウロは諭しているのです(16-32)。

今日は③ c からです。神さまはすべてのことの源泉であり(神から発し)、すべてのことを保持される方であり(神によって成り)、すべてのことの目標であるのです(神に至るからです)。イスラエルと全世界に対する神の救済行為の深さは、賛美と礼拝の対象であり、人生の目的である、と結んでいるのです。

「神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めました、それはすべての人をあわれむためだったのです。」(32)。人は自分の義に行き詰ってはじめて、神様のあわれみにすがらようになるのです。それを神様は待っておられるのです。